

## おわりに

ニホンジカによる森林生態系被害は、2000年代になってその被害面積が急激に拡大したとともに、森林生態系の不可逆的変化が危惧されるほど、その被害の深刻化が増してきています。今や日本の森林管理上の最も大きな課題の一つといっても過言ではないと思われます。その一方で、捕獲による生息密度低減や植生保全対策の取り組みについては、まだまだ不十分な対応しかできておらず、問題の解決は道半ばな状況にあります。

このような状況の中、森林動物研究センターでは、被害の全体像の把握や捕獲対策、植生保全対策について模索し、またこの問題が県民に広く周知されるよう努力してきました。今回のモノグラフは、2017年3月に発刊した兵庫ワイルドライフモノグラフ9号「兵庫県におけるニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術Ⅱ」の続編となります。前回のモノグラフの刊行後の新たな研究成果をできる限り盛り込むことで、この問題に対する当センターの現在の到達点を示すことを目的の一つとしました。

当研究センターは発足以来17年が経ちましたが、この期間、シカによる森林生態系被害のモニタリング手法を確立し、さらにはモニタリング体制を整備することができました。これによりシカの密度指標のモニタリング・データとの関係解析が可能となり、その結果、森林生態系保全を目的にシカの管理目標値を設定できるところまで管理体制が進展しました。また、シカが生息する環境下において人工林を広葉樹林へ転換する長期野外操作試験や希少植物の生息域外保全なども進めてきました。今後の大きな目標としましては、既に植生が衰退している地域における植生復元や植物多様性の保全、シカが高密度で生息している地域における森林の健全な更新、その道筋をつけることが挙げられます。

最後になりましたが、査読責任者の栗山武夫主任研究員をはじめ論文査読にご協力頂いた方、調査分析の基盤となったデータ取得にご協力頂いた全ての方々にお礼申し上げます。本モノグラフが兵庫県の県民の皆様、行政関係の皆様、或いは他府県の皆様の何かのお役に立つことができることを、執筆者一同、希望しております。

兵庫ワイルドライフモノグラフ 編集委員会  
責任編集者 藤木 大介